

支えあいのまちづくり協議体（京橋地域）実施報告

中央区に住む方・働く方ができる支えあいの形について、身近な地域で話し合う「支えあいのまちづくり協議体（第2層協議体）」の令和7年度第1回目を京橋地域で開催しました。

1 実施日

令和7年5月20日（火）10:00～11:30

2 出席者

日頃高齢者と関わる機会の多い地域住民、関係機関、生活支援コーディネーター 7名

3 内容

- ・新規メンバーの紹介
- ・出席者近況報告
- ・意見交換 ①ゆるっとつながるサロン第1回目の振り返り
②ゆるっとつながるサロンの継続について
③ゆるっとつながるサロンの担い手について

4 新規メンバーの自己紹介、出席者近況報告

京橋おとしよりセンター・牧野氏、中央区社会福祉協議会地域支援部ささえあい課・小川、中央区高齢者施策推進室高齢者福祉課高齢者活動支援係・竹内氏の順番で簡単な自己紹介を行った。

竹内氏から、中央区の粹なまち健康プロジェクト「健康状態把握事業」（別紙参照）、徘徊高齢者探索システム費用助成（別紙参照）、補聴器購入費用助成の変更について説明あり。

5 意見交換 ①ゆるっとつながるサロン第1回目の振り返り

意見交換を行い、以下の意見・感想があがった。

- ・チラシに日付が入っていなかった
- ・湊カフェに来た人に宣伝したが、宣伝が早かったため、覚えている人がいなかった
- ・おとなりカフェ・ちょこっと相談会と間違えてきた人がいる
- ・世代を超えて関われる環境はなかなかないため、自由に話している姿が印象的
- ・連絡先を交換している人もいた
- ・当日の参加者と一緒に帰る人もちらほら
- ・介護保険や施設入所の相談などもあった
- ・背筋が伸びている高齢者が多かったため、外に出るのが苦じゃない人達が集まった
- ・近所の高齢者と関わる機会もないため、子どもにとっても良い体験になった
- ・民生委員からも世代を超えた関わりを持てる場であり、「ここに行けば楽しめるよ」と地域の方々に言えるような場所であったと言ってもらえた

- ・持病のある方などもいるため、従事職員は情報共有をしていく必要がある
- ・配慮が必要な方に関しては、こちらが飲み物を用意する・ツキチカ!の広報になった
- ・“相談会”という文言ではなく、もっと地域の方が気軽に来られるような表現もあると勉強になった
- ・高齢者の方が集う場所なので、行くのを躊躇している子育て世帯もいた

意見交換 ②ゆるっとつながるサロンの継続について

意見交換を行い、以下の意見があがった。

- ・とにかく月に1回やる
- ・昔遊びコーナーなどを設ける(べいごま、けん玉、ヨーヨーなど)
- ・多世代交流という機会を社協が設けることはあっても、それ以外で多世代交流を行うような機会はないため、このような場は貴重
- ・区としては、相談に来た高齢者に対し、サロンの紹介は可能

意見交換 ③ゆるっとつながるサロンの担い手について

意見交換を行い、以下の意見があがった。

- ・引退した民生委員で余裕のある人に手伝ってもらう
- ・おとなりカフェとのコラボ
- ・地域の方とコラボレーション(社協ボラセンの個人ボランティアと高齢者の人材バンクを活用)

6 今後のスケジュール

次回開催日は 7/3(木) 10:00~11:30 場所:ツキチカ!で決定。今後の取り組み(～ポッチャでつながる～ゆるっと夏休み)について意見交換をする予定。

<参考> 意見交換の内容を書いたホワイトボード(裏面)



